

資料 2

小中一貫校の懸案事項等について

人間関係の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係については、継続的に見ていく体制を取り、子どもたちが安心して学び、過ごせるようにしていくことが必要である。 ・人間関係の固定化→施設分離型であれば固定化は緩やかであると考える。 ・小学校高学年のリーダーシップが育ちにくい→施設分離型であれば現在に近い教育活動が可能であると考える。 ・小中学校教員が、お互いの教育文化の違いを認め、尊重し合うことが大切。そのために、お互いに授業を見合う機会を増やしたり、話し合う機会を増やしたりすることが必要である。対面により関係を深める機会も必要であるが、リモート会議等も活用して、効率的な交流を図ることも考えられる。 ・小学校同士の交流も行っていくことにより、中学校へ進学し人間関係を構築するとしても0からの始まりではないため、スムーズな人間関係が構築されると考えられる。また、中学校のクラス編成をする際に、2校の子どもたちの実態や交流の状況を踏まえ考えることもできるのではないかと。 ・児童・生徒はより広い異年齢との関わりにより、多様な経験を積める機会が増えるとともに、異年齢が長く関わる事で自身のキャリアを考えるきっかけができるのではないかと考える。 ・現在の中学校区がそのまま生かされるのであれば、小中一貫教育となっても児童・保護者については今までと変わらないと考える。 ・教職員については、学習活動の内容によっては、分掌ごとや学年ごとに、今まで以上に直接的に話し合いをし協力する関係性が必要となると考える。 ・小中の教員が出来るだけオンラインではなく、顔を合わせる機会をもてれば、自然と学区の子供を中心に置いたコミュニケーションができ、豊かな人間関係の構築が可能である。 ・あまりマイナスなイメージが思い当たらない。少し視線が逸れるが、しいて言えば、校則などの設定は難しくなるのかなと思った。現在も小学生は割と自由であるが、中学生は細かく規定された印象がある。一方的にどちらかに寄せるのではなく、これを機に本来守らせるべき校則を改めて設定しても良いかと考える。 ・施設分離型では児童、生徒の人間関係の固定化はないと思いますが、いかがでしょうか。自分の経験上、環境の変化＝リセット効果も捨てきれない。 ・環境が大きく変化しないことから、「中一ギャップ」といわれるストレスは減り、不安も少ないと思います。しかし、いじめを受けていた子はリセットできないため、これまで以上に教員、保護者、地域が目配りをするのが大事 ・小学1年生と中学3年生の9年間の年齢差、自我の形成時期にいかにして社会性を身に着けるか。小学校間のイベント交流などの切り口もありやしや。 ・子どもがその環境に対しスムーズである場合は、小中一貫の良さが活きたと思うが、その逆であった時は、先入観なく築く人間関係や、新たな環境のリセット感が成長につながることもあるのではないかと。 ・人間関係が固定化してしまう。児童にとっても、保護者にとっても人間関係がうまくいかなかったときに長引いてしまう懸念。
進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に入学する段階で、人間関係等で不安がある児童の進路をどのようにしていくか。実態及び本人保護者の希望から、違う校区への進学を認める。 ・中学校によって、部活動の内容が違ってくることが考えられる。「○○部があるから○中学校へ進学したい」という、部活による進路選択を可とするのか否か。 ・一貫校に、通常の学級、通級による指導（特別支援教室・通級指導学級）、特別支援学級（知的障害）、特別支援学級（自閉症・情緒障害）を設置して、「多様な学びの場」を整備し、特別支援教育を充実することが理想と考える。 ・中学校区ごとの特色ある教育活動を推奨しつつ、福生市の公立学校として取り組むべき小中一貫カリキュラムを明確にし、取り組む事で、市内どの中学校区で学んでも同様の進路選択を担保していくことができるのではないかと考える。 ・特色の打ち出し方によって、国都立や私立中学校への進学が少なくなり、市内中学校への進学は増えるのか？現在中学校・中等教育学校を考えている家庭がどのような理由からであるのか分かって見えるのではないかと。 ・高校への進学について生徒らの様々な可能性を考えたとき、ある程度フラットな、どの道に進むにも一定の力を付けてあげておく必要性を感じる。 ・こちらもあまりマイナスなイメージは思い当たらない。この議論をするのは時期尚早であると思う。9年間の教育課程について従来と変わらず、6年+3年の課程とするのであれば進路選択への影響はないように思う。卒業式の扱いは難しいが、一時期に同時に複数の転校生を送り出すという流れでも良いように思う。大事なのは今までの流れを正として扱のではなく、これからの正しい形をみんなで作りこんでいくことだと思う。 ・中途入学、編入、中学受験、通学不便、定員、それぞれの一貫校でどこまで特徴を出すことが許されるのか。例えばスポーツ、音楽の部活動など。 ・私立中学校受験が増えるのではないかと、少し気になります。 ・これは将来の職業選択という意味とするならば、福生の地域性を生かせる選択があるか。地方においては地産地消の視点から漁港の町では低学年の子供たちに魚のさばき方を教え「命をいただく」感謝の心を育てている地域もあります。職業体験の先にある勤労の大切さの教育が欠かせないと思います。 ・トータル9年間の指導計画とした場合、中学受験への対応。（市内すべてが同時に小中一貫にはならない前提で） ・途中から小中一貫への転入は可能なのか(またその逆)。
教職員への負担と相互関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の教員が共通理解を図るには、一定の時間を要する。その時間の確保することが必要である。現在の交流会を発展させていくことも方法である。その際には、必要なことは行いつつ、加重にならないよう、時間の取り方や回数を吟味して行っていく。 ・9年間の教育課程の作成や行事の検討→○中学校区ごとに分科会を立ち上げ検討する。○教科の教育課程については、福生市教育研究会での検討も考えられる。 ・施設分離型の場合、小中教員による相互乗り入れの授業や授業支援のための移動に時間がかかる。 ・各学校の特色ある教育活動を、今後、同じ中学校区の一貫性のある教育活動として深化・発展させていくことが必要である。そのために、中学校区のよさを生かした特色ある教育活動とは何か、検討していくことが大切である。 ・学校間の位置的に離れている場合、自転車での移動時間がある。授業等様々な連携等を行う場合、移動時間以上の無駄な時間が出てしまう場合がある。例えば、中学校の一コマの授業を参観する場合、小学校の教員は一コマ授業を抜けて見に行くことはできず、2コマ～3コマの授業を空けておかなければならなくなるのではないかと。 ・この数年福生で在職している教員は、大きな流れの中で福生の子どもが抱える様々な課題に対応するためにも小中一貫教育の必要性を理解しているものと考えますが、転入者の中に戸惑う者が出てくる可能性がある。その意味では公募による転入者への働きかけが重要になってくる。 ・相互の関係については、今までも三中学区では年三回の小中連携事業を通して顔の見える関係を構築してきている。管理職を通さずに連絡連携できるもの（しなくてはならないもの）ができて困ることはないと思う。 ・授業時間が45分と50分という違いがあること、一体型や隣接型ではない（分離型）場合、移動に時間がかかることを考えると、打ち合わせ等も含め今まで以上の授業協力などは教員にとって大きな負担となることが予想される。 ・教員は小中が連携することの意義と成果は理解しているが、多くの時間をこのことに割くことには慎重にならざるを得ないです。すでに多忙であるので、ライフ・ワークバランスも考慮した持続可能な取組にしていく必要を感じます。そのためには活動のポイントを絞ることと、成果を実感できる取組から始めるなどの工夫が必要かと思えます。（再掲も含む） ・前回お話ししたように、小中の教育課程のつながりや一貫性に着目すべきだと思えます。福生市立学校教育研究会（福教研）において小中の合同部会による教科の活動が行われており成果が期待できそうです。一方、特別活動や生活・総合等は学校ごとに活動内容に特色があるので、どのような活動を行っているかをお互いに知ることから始め、9年間を見通し、より効果的な活動をめざし各中学校区で情報交換と検討を進めるべきだと思えます。さらに、活指導(例えば「SNSルール」)の在り方についても、一貫性のある効果的な取組を各中学校区で模索していく必要があると思えます。 ・教職の負担感が一番の懸案事項と捉える。負担軽減のために、互いに無理のない小中連携事業を確実なPDCAサイクルの下に実施し、1年間で完成させるのではなく、数年の時間をかけてより充実したものにする。 ・こちらもあまりマイナスなイメージは思い当たらない。こちらも議論をするのは時期尚早であると思う。クラス割やクラス数などに対する教職員の配置案などが想定される以前に議論する内容ではないように思う。 ・教職員への負担：諸会議の増加、学校間の行き来時間、小中学校の授業時間差。働き方改革の低下を避ける策は？小中学校の教職員の信頼関係を深めるため今から小中連携を進めてください。 ・一貫教育になると、現場教員の負担は増えるものと思えます。現段階から小中学校の教員同士の、情報交換や意思疎通をより多く行うことが大事です。現場教職員の意見も聞いてみたいです。 ・教職員の方は転勤が常ですが、一般社会のように市内異動教員制度の導入も特区として取り入れることの検討も必要かと思えます。教員資格の融通性があるか小学校の先生が中学でも教壇に立てるかとか。 ・小中がつながることで、子どもたちひとりひとりの成長過程の共有や引継ぎがスムーズに行える等、メリットは多いと思うが、教員不足といわれる中、現場の教職員の思いや、先行実践地区でのデータに加え実際の言葉として話を聞く機会もあるとより参考になるのではないかと。 ・小中の免許を持つ教員とそうではない教員との仕事分担の違いから不公平感が生じる懸念。 ・教職員が9年間の教育に対して意識を持続させていくことが求められるが9年間ずっと勤務できる教員はほとんどいないため、理念継承が困難。 ・小中一貫校では、学校ごとに特色があり学習の進め方の違いがやすいため、転入や転校、受験対応にも応用が効くように配慮する必要。 ・小・中学校間の連携・接続の在り方の課題解決のために制度改革ありきとするのは、現場がその対応に追われ、振り回される可能性があるように思います。

<p>保護者、地域との共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育への地域・保護者の理解を得ることが必要である。説明会等を開いていく。 ・CS組織の在り方は、小学校、中学校でそれぞれ組織し、拡大委員会を各月程度で行う。 ・段階的に丁寧な説明が必要であると考えるが、誰がどのような形で行うのでしょうか。 ・今後、学校が地域の拠点として機能することが理想であると考え。「学校教育の場」としての学校、「社会教育や地域活動の場」としての学校などが考えられる。学校を拠点として教員・保護者・地域がつながることが、ひいては子どもたちの豊かな学び・豊かな生活につながると思われる。 ・コミュニティ・スクールの形態をどのようにしていくのか。現状のまま各学校でコミュニティ・スクール委員を置くのか、中学校区の一貫教育校として置くのか、また各学校で置き中学校と小学校の兼務をする委員が出るのか。PTAは一貫校で組織した場合、組織が大きくなりすぎるので、各学校で組織され、一貫校で組織間の連携を行うのが良い。 ・中学校区を中心にした小中一貫教育の推進は、より広い範囲の地域・保護者の交流と教育活動への理解と協力が不可欠となるが、それこそそこで「コンパクトシティ福生」の強みが生かされるのではないかと。 ・情報共有は重要だと思う。その中で、学校だよりやホームページの設定はどのようにするか、今まで通りそれぞれに作りつつ、もう一つ、一貫教育校としても作成し発信するかなど、考える必要がある。 ・施設分離型の小中一貫校になることを想定した場合、CSはどのような形になるのでしょうか。それぞれ別々のCSとして継続していくのか、それとも一貫校として一つのCSといった形もあり得るのか、考えていく必要があると思います。また、PTAについても中学校区ごとの連携が必要になると思われます。 ・保護者には、小中が連携していることを、保護者会等で折に触れてアナウンスし、地域においては、小中のCS委員会が協働し、連携する場面も設定し、CSの活動を軸に地域との共有を図る。 ・こちらも時期尚早かと感じる。学校施設の中に何かが加わるのかが見えずして、議論できる内容ではないと思う。これを課題として議論する前に、学校内に設けるべき共有施設は何であるべきか等の議論をすべきだと思う。 ・目の前にある環境が変わることへの不安解消には小中一貫校の姿を早めに示し、各学校で保護者、地域への説明会等で理解を求めて行くしかない。 ・CS委員会を小中合同で行い、9年間の教育について緊密な情報共有が必要。しかし、コミュニティスクールとは何なのか知らない保護者や地域の方々も多いので、もっとCSの制度を周知する必要があると思います。 ・福生の社会動態をしっかりと把握して、保護者の方がお子さんが卒業しても地域社会で活躍できる仕組み作りも大切だと思います。子どもを地域で育てる地域力の強化も市全体の取り組みが求められます。 ・小中一貫と聞いて『実際に何がかわるのか』の理解・説明を、色々な考え(温度差含め)がある中、どのような形で情報発信して共有へつなげていくのか。 ・統廃合を伴う場合、地域で慣れ親しんだ学区がなくなることへの抵抗感
<p>学区の整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遠いところから通っている児童もあるため、可能であれば、学区の整理が行えるとよい。 ・現中学校区を中心とした学区が望ましいと考えるが、将来的に小中学生の人口減少や施設の老朽化を考えて学区の整理が必要があるのであれば、今年度の検討委員会ではどこまで検討するのが明らかになると、論点が絞られ考えやすくなる。 ・同じ小学校の卒業生が、皆、同じ中学校へ進学できるという今の学区は、小中一貫教育を進めるうえで好都合である。今後、大型集合住宅の建設等により、児童・生徒数に変更が生じる場合は学区の見直しが必要かもしれないが、現時点では今の学区を維持していくのでよいと思う。 ・学区については、現状の中学校区で良いと考える。 ・現在の校区割りを維持する。 ・人口、学齢期の子どもの偏りがどの程度あるのか具体的に見えていないので、学区の再編が必要かが見えない。他地区で再編新校の立ち上げ時に在職していたが、地域の方々の思い、卒業生・在校生の思いが前向きな方向にとらえられるような進め方が必要だと思う。 ・学区について検討する際、それぞれの学校の児童・生徒数について検討がなされると思います。どの程度の規模が適正か、現場の管理職等から意見聴取をお願いしたいと思います。 ・三中は、他の二つの中学校と比べて生徒数が半分である。行事や部活動等の運営の面でマイナス要素もある。3校がほぼ同数となる学区の整理が理想である。(なかなか困難であるが・・・) ・こちらも時期尚早かと感じる。学区がこうなる、もしくはこうなる可能性がある、といった仮定なしに議論すべき内容ではないように思う。 ・町会・自治会の線引きが絶対と考えるのではなく、一中：三小と二小の一部、二中：一小と四小と六小、三中：二小の一部と五小と七小。小学校の統廃合は当面行わない。 ・現在の中学校区域での整理するものと思います。 ・中学校区自体を変更しない分離型を目指すのであれば、各小学校区の境界を中学校区の中であれば、一段と緩やかにして日々の通学の安全、児童の負担軽減に踏み込むことも検討課題と思います。 ・小中一貫校希望(またその反対)の場合、他学区から入学可能なのか。 ・入学可能としての定員人数・距離への対応。 ・低学年の児童にとって、通学距離が長くなる。
<p>検討委員会等の運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会において、小中一貫教育を進める上で共通に理解して進めていくことや教育課程を検討していく必要がある。定期的実施していく必要がある。 ・小中一貫の視点をより取り入れたカリキュラムの作成をしていくことが必要である。開発委員会を設置する。 ・現中学校区を基にした小中一貫型の小・中学校を目指すのであれば、福生市全体の小中一貫について検討していく全体と、次年度から各中学校区で取り組む内容を検討する学校区による分科会がもてるとよい。 ・施設分離型の小中一貫校を目指すのであれば、同じ中学校区の委員で集まり、意見を交わすのも意味があると思う。検討委員会の分科会的な話し合いがあってもよいのかもしれない。 ・今後、設置要綱の第1条の内容をどの程度まで検討していくのか。 ・小中一貫教育の必要性は相互理解が進んでいるので、より効果的な小中一貫校の在り方についても意見交流できるとよい。 ・「小中一貫教育」と上がったときに思うことを何でも言うのは議事録を公開する検討委員会で適しているのか不安。IFで様々なパターンを出して考えるのには、会議の形態が大きいに感じている。 ・働き方改革の時代、小中一貫教育の必要性を教員に感じさせることが肝要と感じる。委員会はここにポイントをしばった働きかけや運営ができればと、思う。 ・今年度に到着しておくべきゴールがあるのか(決定事項など)、来年度に持ち越して議論してよいのか、この委員会の今後のスケジュールを少し明確にしていきたい。上記意見でも触れているが、議論が足早となることで重要と思われる議論がなされないままに何かが決定されていくことは避けたい。 ・福生の小中一貫教育のあるべき姿についての総論を議論する時間があってほしい(例えば小学校、中学校が現在抱えている課題を小中一貫教育でどうすれば課題解決ができるのか)。 ・事務局の発言の中で、検討で約10年程度かかる、ということでしたが、はじめはクラブ活動の交流等、できることから取組むのはいかがでしょうか。 ・残すところ2回の検討委員会で教育委員会への提言まで行くのか心配しています。本委員会の運営については特段の懸念は持っておりませんが、事務局においては「第4回はここまでまとめてもらいたい」とか提示いただければ幸いです。 ・現実として、福生で可能な(設立時期含め)小中一貫校の方向性を明確にし、今、具体的にできることは何かに基づいたテーマへの理解を深め、検討及び共有へつなげるさらに充実した委員会であることに期待しています。

自由記述	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一体型は絶対にはないのか。 ・同じ敷地内、建物内に、他の公共施設と共存・共有型はありうるのか。 ・防災の観点から現在の建物の安全性を考えたとき、どのくらいの時期にどのくらいの補強または建て替えが可能なのか。（避難所としても使用することを考えなければならないのではないか。ハザードマップ等を確認すると、高所避難が可能な建物にするなどの対策も必要ではないかと考えるため。） ・小中一貫教育（一貫校）としたときに、小学校は最終的に減らす方向で動いているのか。また、その場合、何年度あたりを目途に小学校の統合、もしくは小中共に再編していくことをイメージしているのか。 ・教育課程編成は、どのように考えるか。（一貫教育としての軸は同じだが、それぞれの学校で編成するのか、一貫教育校として9年間を貫いて作成し、小学校複数校もそれに合わせるのか。） ・コミュニティー・スクールの委員、コーディネーターの数や活動の範囲。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各校校長が、今年度に入ってこれまで本市が取り組んできた小中連携に加え、小中一貫教育の推進を意図してきたことが、少しずつ成果として実感できたことが語られた会になり、小中一貫教育の価値を再認識できた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・20～30年後に新たな施設になるということですが、それまでの間、現状の施設を使用していくことになります。児童・生徒が日々生活する現在の教室環境や使用する備品等について、向こう20～30年間を見通して、必要な修繕等をそれぞれの学校の要望に基づき進めていただけるとありがたいです。
委員	<p>第一回からの流れを見て個人的な所感としては、学校施設の統廃合には、「① 小中学校区の整理」「② 地域の町会自治会との関連性」「③ 財政的課題」等の観点から小中一貫校開設とは言っても物理的な現状変更は実務的に困難であり現行の中学校区を基本とするの判断がされているような印象を持っています。この在り方検討委員会はその意味で、理想とされる小中一貫校の開設を目指すもののそれはソフト面での教育環境の整備、強化が前面に出て、ハード面＝教育インフラにおいては上記の制約から現中学校区を基本とする「分離型」に必然として帰着するという方向性が示されていると考えてよろしいか。であるならば現時点でも先生方が積極的に取り組まれている「一貫教育」と「めざす小中一貫教育」の差別化、目指すものとの不足している事項の抽出に論点を整理していただくことが肝要と思います。</p> <p>本日の会の感想等 日頃の各学校の先生方の、児童生徒の学力向上、自尊感情・自己肯定感の向上のためにいかにして就学前から中学卒業までの間の切れ目のない教育を目指されている姿勢を感じうれしく思いました。複眼視的に福生の教育の状況を知ることもできて大いに啓発されました。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の各学校建物・施設をそのまま小中一貫校を進めて行く施策では施設分離施設形態となりますが、この形態を最終形とすべきでない。一貫校開設に際しては福生市個別施設計画の「学校の老朽化と再配置」についてはイメージではなく、より実効性ある計画とすべきである。新築再配置では施設機能が〈建物内への集約〉⇒施設一体型、〈学校周辺への集約〉⇒施設隣接型の計画進行を望みます。 近隣の地域会館などが複合化・集約化となれば学校が地域の拠点となることで地域総がかりの教育に繋がる。 ・中学校教職員の負担となっている部活動顧問を軽減するため、外部人材の採用・活用を一貫校開設までに解決しておくことをお願いしたい。 ・小中学校の教育当事者である教職員と保護者に対する説明とその双方の理解度が今後の小中一貫教育を左右すると思います。 <p>本日の会の感想等 小中一貫教育の必要性や期待を議論しその効果と課題を共有することで、福生の小中一貫教育のあるべき姿の第一歩が進んだと思います。今後は議論の更なる深掘りを期待します。</p>
委員	<p>本日の会の感想等 第3回で、校長先生方の積極的な意見が多く出されました。現場トップの反対意見があると進まないことなので、安心しました。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福生市において「小中一貫校」が、なぜ適していると思われるかを、ブレないで貫くことが重要と考える。そのひとつは、小学校の学年で単数あるいは少数のクラスしかなく、「クラス替え」がしばらくの改善が必要であること。社会で生きていくことへのステップを踏ませたいからである。いわば、「社会性をもった新しい学園」「地域と一体となって教育ができる学園」「本当の意味でのコミュニティ・スクール」を目指すのも一考かと思う。福生市人口の未来予測による少子化で、児童数減少が避けられないのであれば、ある程度の学校規模をもたせるため小学校の統合が必要と考える。この「小学校統合」などの学校区再編の成果として、「学校を減らす」のではなく「新しい学園」を造るというポジティブなイメージで進めてみてはどうか。 ・他方、現在福生市内32の町会・自治会はそれぞれの特色のある地域性があり、主に中学校域でそれぞれ大きいつながりを持っているように感じられる。先に述べた「地域と一体となって教育ができる学園」として、中学校と地域をも巻き込んでいく公共施設も含めた「小中一貫型」の学園を目指したら良いかも知れない。また、子どもの「中1ギャップ」の緩和に寄与するという一方で、階段を上っていくときの気持ちの更新を、いかに工夫していくかは、地域のチカラを巻き込んでいく方策も考えたい。 ・もとより、公共施設も含めた「一体型」が理想的でありがたいところで、そこはできる限りの知恵と工夫を求めたい。やむを得ず「分離型」を選択した場合に生じる懸案は、都市計画などハコモノの観点でどう解決するかなどが求められる課題と考える。 <p>本日の会の感想等 傍聴人が多数みえたことなど、市民の関心の高さを感じた。</p>
委員	<p>本日の会の感想等 現在、行っている(行った)取り組みの話がとても興味深く、その事を共有できたことも、この会の今後につながると思いました。</p>
委員	<p>本日の会の感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設分離型で進めていくという方向性が確認され、教育課程での一貫を目指す視点で考えていくことが整理され、今後、具体的に進めていく必要がある。 ・各委員のお話からすでに様々、地域との交流が進められていることを知ることができた。今後の交流の在り方について参考となった。